

二見野田崎地区（八代市）

令和の時より、未来に向けて
～安心して生活できる地区を目指す～

キーワード

作業効率の向上

施設野菜



ビジョン策定年度：令和元年度 目標年度：令和5年度

1. 課題と将来像・ビジョンの内容

地区の「課題」と将来像

【地区の課題】

- ・高齢化による農業担い手・後継者の減少
- ・農作業機械の老朽化による作業効率の低下
- ・ほ場及び耕作道が狭いため、作業効率が低くなる
- ・1ほ場あたりの面積が小さく、作業効率が低い
- ・樹木等の管理ができておらず、日照条件が悪化
- ・鳥獣被害等による作付け意欲の低下
- ・集落機能が低下し、集落存続の危機



【地区の目指す姿】 = ビジョン

- (1) 耕作環境・区画整備等により作業効率向上、棚田の景観維持
- (2) なすの品質向上、新規高収入作物導入による所得向上。鳥獣害対策の奏功
- (3) 後継者の営農、地区外担い手受け入れ



【成果目標】

- ① 基盤整備を行い、水稻の規模拡大を図る
- ② なすの品質向上、新規作物導入で所得を確保する
- ③ 共同利用組織の設立により、コスト及び作業負担を軽減し、景観を維持する

ビジョンの内容

(1) 基盤整備等の実施

- ① 作業道を整備し、農作業の負担軽減を図る。
- ② 区画拡大、石積補修を行い、作業効率の向上、作付面積の拡大を図る。

(2) 農作業環境の向上

- ① 耕作道回りの樹木等を伐採し、景観維持、作業効率向上を図る。

(3) 鳥獣害対策の実施

- ① 電柵、ワイヤーメッシュ等を設置し、鳥獣害の軽減を図る。

(4) 高収益作物の品質向上及び新規高収益作物の導入

- ① 土壌分析等を実施し、なすの品質向上を図る。
- ② 新規高収益作物の試験ほ場を設置し、検討を行う。

(5) 機械の共同利用組織の設立

- ① オペレーターを育成し、後継者が残る仕組みを確立する。また、若手農業者と高齢農業者の役割を分担し、全員参加型の組織を作る。

整備・導入内容

令和元年度	作業道整備、石積補修、機械の導入（バックホー、ハンマーナイフ、モア、畦塗機、トラクター）、機械格納ハウス
令和2年度	苗、石積補修、農道整備、コンバイン、セット動噴、巣棟ハウス

2. 野田崎地区の現状

【農業者に関する状況】

・総戸数	91戸	平成30年7月住民台帳
・総人口	286人	平成30年7月住民台帳
・農家戸数	39戸	平成27年農林業センサス
・農業者数	39人	平成27年農林業センサス
・担い手数	5人	
・65歳以上の就農者数	32人	平成27年農林業センサス

【農地に関する状況】

(1) 面積区分

・水田	35.7ha	平成26年固定資産台帳
・畑（樹園地除く）	29.8ha	平成26年固定資産台帳

(2) 筆数

・水田	748筆	平成26年固定資産台帳
・畑（樹園地除く）	940筆	平成26年固定資産台帳

(3) 作付区分

・水田	水稻/なす
-----	-------

(4) 耕作放棄地

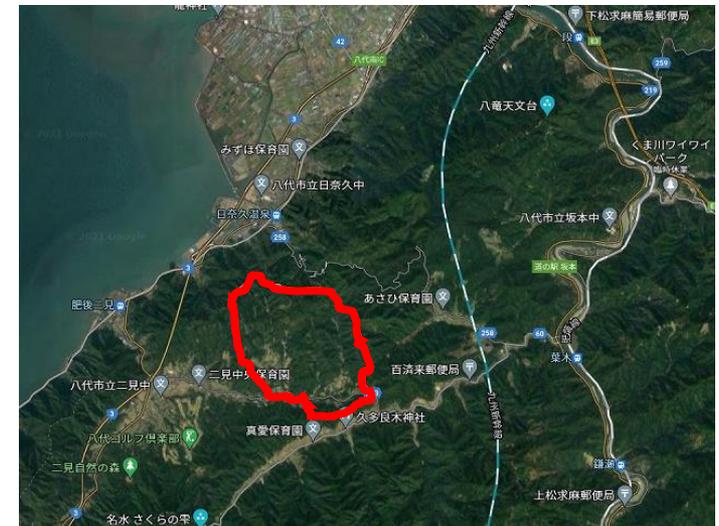
あり

【基盤整備に関する状況】

(1) 耕作道路	幅員2.0m未満
(2) 排水	土水路
(3) 用水	水路から直接取水 井戸ボーリングによる取水 河川水をポリタンクに汲み上げ、 運搬して取水

■ 地区の現状

- ・地区の農業従事者は**65歳以上が約80%**を占めている。
- ・加速度的な高齢化と人口減少により、**次世代の担い手が不足し、農業生産が不可能な状態**である。
- ・水稻単作で1戸あたりの経営規模が小さく、**収益が上がらない。**
- ・トラクターなどでの農業機械は各農家が所有し、**過剰投資の状態**。老朽化しても**買い替える余裕がない。**



(1) ビジョン策定に至ったきっかけ

「農地を守り継いでいきたい」という思い

野田崎地区は、農業従事者の80%以上が65歳以上と高齢化が進んでおり、若手の後継者が不足している。他の中山間地同様に厳しい現状の中、**なんとかこれからも農地を守り続けていきたいという思いを抱いていた**。また、農業機械の老朽化に伴い、共同利用組織の必要性も出てきており、ビジョン策定に至った。

(2) ビジョン策定メンバーと手法

【メンバー】

水稻や露地野菜栽培などを手がける地区内の農業者

【手法】

八代市農林水産課で素案を作成し、話し合いを重ね、住民の声を反映させながら、作成していった。

(3) ビジョン策定の流れ

地域の現状把握 危機感の共有

地域の現状を把握し、「このままでは耕作放棄地ばかりになってしまい、担い手もいなくなる」という危機感を共有。

「何ができるか」 を検討

課題解決のための具体的方策を検討する際、「継続していく」ことを軸に、現実的に実現可能なビジョンを検討した。

合意形成

ビジョンの大きな柱である農業機械共同利用組織の設立を中心にメンバーの意見をまとめた。最初に危機感の共有を行ったことで、目標が明確となりスムーズに合意形成を行うことができた。

■ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的内容	参加人数
1	平成30.8.10	・モデル地区のビジョン作成についての打ち合わせ	6人
2	平成30.8.28	・全体会議	32人
3	平成30.9.18	・中山間地域農業支援PT会議	—
4	平成30.10.2	・県ヒアリング	5人
5	平成30.11.9	・集落協定役員会議	7人
6	平成31.1.18	・代表者打ち合わせ	3人
7	平成31.1.21	・全体会議	17人
8	平成31.3.1	・基盤整備箇所現地検討会	5人
9	平成31.3.18	・基盤整備箇所現地検討会	5人
10	平成31.3.27	・全体会議	19人
11	平成31.4.8	・代表者会議	8人
12	平成31.4.26	・野田崎町農作業機械利用組合設立総会	25人



(4) ターニングポイント 現地検討会で現状・課題を明らかに

基盤整備が必要な場所を**実際に現地を見ながら検討**を行ったことで、1つ1つの課題や**そこに対する解決策がより明確**になり、またそれを全員で共有することができた。

(5) 重点ポイント～永続的農業の体制づくり

「だれもが安心して農業が営める体制づくり」を

高齢化が顕著なため、個人での新規農業機械の購入や鳥獣害対策、基盤整備等が困難な状況だった。本ビジョンで**「作業効率の向上」「機械の共同利用組織の設立」**を掲げ、**誰もが安心して農業が営める体制づくり**を目指した。

ビジョン（1）基盤整備等の実施

①作業道を整備し、高齢化が進んでいる当地区での農作業の負担軽減を図る。

作業道2カ所（計約70m）の整備が完了

これまでは耕作道が狭く、機械で入るために別のほ場を通ったり、そもそも入ることが難しい状況であった。そこで、地区内2カ所に計約70mの作業道を整備。**機械でスムーズにほ場に入ることができ、作業効率も向上した。**

予算が確保できるのであれば、もっと作業道を作っていきたい。



いずれも、整備した作業道

ビジョン（1）基盤整備等の実施

②区画拡大、石積補修を行い、作業効率の向上、作付面積の拡大を図る。

区画拡大1か所、石積補修5か所
作付面積を確保し、負担が少ない農作業へ

棚田の段差がある影響で、作付面積が限られるので、作業効率が非常に悪い。また、石垣が崩れたほ場でも作付けが困難であった。

そこで、1か所の区画拡大と5か所の石垣補修を行った結果、作付面積を確保することができ、作業効率が向上して**負担の少ない農作業ができる環境を整える**ことができた。

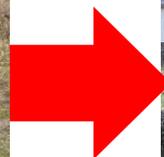


修繕した石垣3か所



区画拡大前

©Google Map



区画拡大後

ビジョン（２）農作業環境の向上

①耕作道路回りの樹木、竹等を伐採し、景観の維持、農作業効率の向上を計る。

**樹木等の伐採で農作業環境を整備
伐採した竹を使った新商品開発にも意欲**

農地に面した斜面から延びる樹木や竹の影響で、日当たりが悪くなり、農作物の収穫量にも影響をきたしていた。そこで、影となっている部分の伐採を実施。実施箇所については、景観も良くなり、日照も確保することができた。ただし、高齢化が進み、継続的に作業することが難しい状況である。

竹林を伐採した際は、伐採した竹をウッドチップで小さくし、用水路の浄化剤として活用。また、竹を竹炭にして米と炊くと美味しく炊きあがる。これらを商品化してみたいという考えもあり、今後の取り組みに意欲を見せている。

伐採前



伐採後



ビジョン（3）鳥獣害対策の実施

- ①電柵、ワイヤーメッシュ等を設置し、
鳥獣害の軽減を図る。

鳥獣害対策でモチベーションアップ

地区全体として、約5割弱ワイヤーメッシュを設置。さらにワイヤーメッシュと地面の境目を竹で強化した。

ワイヤーメッシュを設置したエリアはかなり被害が軽減されてきたので、これからはそのエリアの中でかぼちゃ等を栽培していきたいと考えている。

ただ、ワイヤーメッシュを設置したエリアに隣接する場所に、イノシシ等が多く入るようになってしまったという課題が新たに生じてきている。そのため、今後も継続的なワイヤーメッシュ等の設置が必要である。



いずれも、設置したワイヤーメッシュ

ビジョン（4）高収益作物の品質向上及び新規高収益作物の導入

① 土壌分析等を実施し、なすの品質向上を図る。

露地栽培からハウス栽培へ

元々露地栽培を行っていたが、天候の影響を受けやすく、安定した品質での出荷が難しい状況であった。そこでビニールハウスを設置。また土壌分析を行い肥料などを変えたことで、安定した品質のなすを出荷することができるようになった。

今後の課題は、収穫したなすをどうやって物流にのせるか。現状では市場を通しているが、地区の収穫量が少ないため、集荷に来てもらうことが困難である。**自販の仕組み構築が必要**となっている。



設置したビニールハウス

② 新規高収益作物の試験ほ場を設置。

スナップエンドウやかぼちゃ等を試験的に栽培

なすが収穫できない冬の時期の収入源として、ビニールハウスでスナップエンドウやかぼちゃを栽培している。

ビニールハウスは9棟あり、連作障害を防ぐためローテーションで休ませたり、年毎に違う農産物を育てることにしている。



ビニールハウスで栽培中のなす

ビジョン（5）機械の共同利用組織の設立

①機械の共同利用により、
コスト及び作業負担の軽減を図る農業機械の新規導入で作業効率が格段に向上
機械が使えない人へのサポートも実施

ビジョン策定と共に機械の共同利用組合をH31年4月に立ち上げ、必要な新しい機械を一式購入することができた。

高齢化などで機械を使うことが困難な場合は、若い人がオペレーターとして機械と一緒に派遣され機械操作を行うため、高齢者の負担も可能な限り軽減させている。

また、使う度にリース料を徴収し、機械の整備・修理等を行い長く維持できる仕組みを確立した。



いずれも、共同利用している機械

振り返り・成果・今後に向けて

(1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）

【取り組みが継続するためのポイント①
～ビジョン策定時】

先を見据えた仕組みづくり

【取り組みが継続するためのポイント②
～取り組みの総括】

**若手・高齢者それぞれが
出来ることを認識して
役割分担・支え合う**

(2) 成果

【成果目標】

- ①基盤整備により機能を向上させた農地や、現在維持管理している農地に水稻を作付けすることで規模拡大を図る
- ②高収益作物（なす）の品質向上及び新規高収益作物の導入により所得の確保を図る
- ③共同利用組織の設営により、コスト及び作業負担を軽減し、集落の景観を維持する。

【結果】

- ①区画拡大（1か所）・石積補修（5箇所）・作業道（2カ所）の設置等を行い作業効率化。ただし全体の1割程度。予算内でさらに整備していきたい。
- ②なすの品質向上・安定供給が可能に。また冬期の新規高収益作物としてかぼちゃやスナップエンドウを導入。
- ③野田崎町農作業機械利用組合をH31年4月設立。地区内外で農作業の環境整備に貢献している。

【メンバーの声】

意識が醸成され、組織としてのつながりが強化

今回のビジョン策定を行ったことで、あらためて地区の現状や問題点、組織化の重要性を再認識した。その過程で地区の農家の連帯意識が醸成され、これまではそれぞれがバラバラに活動していたが、組織化されたことで、話の輪ができ、情報共有やモチベーションの維持・アップに繋がっている。

(3) 今後に向けて

高収益作物を自販する仕組みづくり

現在、地区で収穫した農作物は市場を通して流通をしているが、地区全体での量が多くないため、集荷に来てもらうにも一苦労。そこでリスク管理として、市場を通さずに自販する仕組みを考える必要がある。